

令和5年度 学校運営連絡協議会報告書

1 組織

- (1) 東京都立田園調布高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 総務部主任（事務局長） 総務部員（3名） 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生活指導主任、進路指導部主任、総務部主任 計7名
- (4) 協議委員の構成
近隣警察署職員、学識経験者2名、近隣小学校長、近隣中学校長、近隣特別出張所長、近隣自治会長、本校同窓会会長 P T A会長 計9名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回
日時:令和5年6月23日（金） 場所:本校小会議室、出席者:内部委員7名、協議委員8名
内容:校長挨拶、協議委員委嘱、委員紹介、内部委員及び評価委員の紹介、学校経営計画について、各分掌からの本校の現状と課題についての報告、意見交換、協議委員からの提言、事務連絡
第2回
日時:令和5年11月16日（木） 場所:本校小会議室、出席者:内部委員7名、協議委員8名
内容:校長挨拶、各分掌からの本校の現状と課題についての報告、学校評価アンケートについて、意見交換、協議委員からの提言、事務連絡
第3回
日時:令和5年2月9日（金） 場所:本校小会議室、出席者:内部委員7名、協議委員9名
内容:校長挨拶、各分掌からの本校の現状と課題についての報告、学校評価アンケート結果について、意見交換、協議委員からの提言、事務連絡

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
 - ・本校の学校経営計画に基づく教育活動に対する満足度、理解度および情報発信の結果について把握する。
 - ・生徒、保護者、教員に対する設問項目から、三者の意識の相違を通して教育活動の課題を把握する。
 - ・意見欄の設定により意見を具体的に把握する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

① 実施時期（12月下旬）

生徒全員	： 回収数	627名／693名	（回収率 90% R4:98%）
保護者	： 回収数	283名／693名	（回収率 41% R4:45%）
教員	： 回収数	38名／43名	（回収率 88% R4:51%）

② 評価項目

学校経営計画の実現に向けた取り組みが明確になるように質問内容を精選した。アンケート項目は、生徒に対して20項目、保護者に対して19項目を、教員に対しては22項目を設定した。生徒に対する20項目については【学習指導】3項目、【進路指導】3項目、【生活指導・特別活動】7項目【教育環境、校内美化等】3項目【学校満足度】2項目、【スクールポリシー】1項目とした。選択肢については、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「思わない」の4項目である。肯定的な意見は「そう思う」「ややそう思う」の合計数とした。

(3) 評価結果の概要

① 生徒・保護者・教員の比較

設問1 【学習指導】学校は、生徒の進路希望実現に必要な学力を育む授業を行っている。

生徒の 83% (R4:84%R3:75%) 保護者 81% (R4:85%R3:83%) 教員 84% (R4:91%R3:100%) が肯定的評価をした。

設問 2 【学習指導】学校は、生徒が授業内容を十分に理解するよう指導している。

生徒の 79% (R4:83%R3:79%) 保護者の 70% (R4:76%R3:78%) 教員の 84% (R4:100%R3:94%) が肯定的評価をした。

設問 3 【学習指導】学校は、生徒の学力を定着・向上させるため、指導方法や小テスト、自宅学習課題、週末課題等を工夫している。

生徒の 74% (R4:83%R3:78%) 保護者の 75% (R4:76%R3:81%)、教員の 84% (R4:91%R3:94%) が肯定的評価をした。

設問 4 【進路指導】学校は、進路学習（夏季集中型学力向上講習、土曜講習等）の充実に努めている。

生徒の 82% (R4:86%R3:78%) 保護者の 75% (R4:80%R3:79%) 教員の 89% (R4:96%R3:94%) が肯定的評価をした。

設問 5 【進路指導】学校は、進路説明会の実施等を通して、生徒が自分の進路について主体的に考えられるよう指導している。

生徒の 78% (R4:85%R3:82%) 保護者の 79% (R4:88%R3:83%) 教員の 92% (R4:91%R3:94%) が肯定的評価をした。

設問 6 【進路指導】学校は、進路指導部だよりや各種資料の提示を通して、進路情報の提供に努めている。

生徒の 82% (R4:84%R3:79%) 保護者の 69% (R4:80%R3:79%) 教員の 89% (R4:96%R3:78%) が肯定的評価をした。

設問 7 【生活指導・特別活動】生徒は、本校の生活信条「誠実・敬愛・自主・自律」を実施している。

生徒の 64% (R4:77%R3:74%) 保護者の 66% (R4:80%R3:80%) 教員の 63% (R4:52%R3:99%) が肯定的評価をした。

設問 8 【生活指導・特別活動】学校は、体罰・暴言のない教育活動を行っている。

生徒の 75% (R4:92%R3:84%) 保護者の 82% (R4:92%R3:94%) 教員の 89% (R4:100%R3:97%) が肯定的評価をした。

設問 9 【生活指導・特別活動】学校は、年間 3 回の生徒アンケート実施等を通して、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。

生徒の 83% (R4:88%R3:82%) 保護者の 75% (R4:89%R3:87%) 教員 89% (R4:100%R3:97%) が肯定的評価をした。

設問 10 【生活指導・特別活動】学校行事（体育祭、ぼろにあ祭、合唱祭）は充実している。

生徒の 62% (R4:85%R3:74%) 保護者の 80% (R4:82%R3:81%)、教員 79% (R4:91%R3:81%) が肯定的評価をした。

設問 11 【生活指導・特別活動】部活動は充実している。

生徒の 70% (R4:80%R3:74%) 保護者の 65% (R4:75%R3:67%) 教員の 63% (R4:70%R3:69%R2:64%) が肯定的評価をした。

設問 12 【生活指導・特別活動】教員や養護教諭、スクールカウンセラーによる悩み相談等、学校の相談機能は充実している。

生徒の 76% (R4:89%R3:78%) 保護者の 69% (R4:83%R3:81%) 教員の 87% (R4:100%R3:94%R2:92%) が肯定的評価をした。

設問 13 【生活指導・特別活動】学校は、感染症対策下にあっても、必要な非常災害時の対応について指導している。

生徒の 76% (R4:86%R3:76%) 保護者の 71% (R4:88%R3:86%) 教員の 87% (R4:91%R3:90%) が肯定的評価をした。

設問 14 【教育環境、校内美化等】学校の施設・設備は充実している。

生徒の 48% (R4:52%R3:53%) 保護者の 41% (R4:47%R3:46%) 教員の 45% (R4:17%R3:64%) が肯定的評価をした。

設問 15 【教育環境、校内美化等】生徒は校内美化に努めている。

生徒の 52% (R4:63% R3:64%) 保護者の 60% (R4:69% R3:67%) 教員の 47% (R4:57% R3:64%) が肯定的評価をした。

設問 16 【教育環境、校内美化等】学校図書館(図書室)の蔵書・設備は充実している。

生徒の 83% (R4:89% R3:80%) 保護者は 69% (R4:84% R3:83%) 教員の 89% (R4:96% R3:88%) が肯定的評価をした。

設問 17 【情報公開】学校は、ホームページや授業公開週間を通して、教育活動の様子を保護者や地域に積極的に公開している。

生徒の 75% (R4:85% R3:75%) 保護者は 78% (R4:87% R3:75%) 教員の 87% (R4:96% R3:75%) が肯定的評価をした。

設問 18 【学校満足度】生徒は、本校に入学して満足している。

生徒の 72% (R4:84% R3:77%) 保護者の 75% (R4:87% R3:85%) 教員の 74% (R4:91% R3:97%) が肯定的評価をした。

設問 19 【学校満足度】田園調布高校への入学を、親しい人に勧められる。

生徒の 59% (R4:77% R3:74%) 保護者の 65% (R4:85% R3:81%) 教員の 58% (R4:72% R3:76%) が肯定的評価をした。

設問 20 (生徒) 設問 22 (教員) 【スクールポリシー】学校はスクールポリシー(3つ)の意識づけをしている。

生徒の 64%、教員の 63% が肯定的評価をした。

設問 20 (教員のみ) 【教育環境、校内美化等】教職員は、計画的かつ合理的な仕事の進め方により、業務の効率化を図っている。教員の 47% (R4:39% R3:61%) が肯定的評価をした。

設問 21 (教員のみ) 【教育環境、校内美化等】教職員は、会議の上限時間を設ける等、勤務時間の縮減を図っている。

教員の 42% (R4:39% R3:45%) が肯定的評価をした。

(4) 評価結果の分析・考察

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5月から第5類に移行したことに伴い、感染拡大防に努めながらほぼ感染前と同様な形で、体育祭、文化祭、合唱祭と実施することができた1年間であった。感染防止に努めた昨年度に引き続き、新たな形で教育活動を模索しているところの結果である。

① 【学習指導】について

本校は東京都教育委員会から進学指導研究校(第3期)に指定され、9割以上の生徒が進学を希望する4年制大学入学に必要な学力や、高大接続改革で求められる知識・技能及び思考力、判断力、表現力を育む授業を推進している。学習指導については、教員側と生徒側の意欲や学力向上に努めているという肯定的な評価が、昨年度と比較し割合が減少した。

設問 1 【学習指導】学校は、生徒の進路希望実現に必要な学力を育む授業では、生徒の割合にほぼ変化はないが、教員の割合が昨年度と比較し7%減少している。

設問 3 【学習指導】学校は、生徒の学力を定着・向上させるため、指導方法や小テスト、自宅学習課題、週末課題等の工夫では、生徒・教員とも約7%減少している。

昨年度と比較すると、教員側の授業に臨む思いが生徒に十分に伝わってきたが、課題の量や質における改善がなされないと、受ける生徒も異なることから、配慮した指導を行うことが求められるといえる。分かる授業や学力向上を実感できる授業を推進させるためには、生徒の学習状況を十分に捉えていきたい。

② 【進路指導】について

設問 5 で、生徒の 78% (R4:85%) の生徒が、主体的に進路について考えることができるよう指導されていると答えている。教員の 92% (R4:91%) の評価に対し、14% (R4:6%) の肯定的評価の開きが広がった。

キャリアガイダンスや面談週間において、進路意識の向上に努め、生徒のニーズに沿った進路情報の提供の仕方をより工夫していくこととする。また、教員間では情報共有をさらに深め、模試に対する分析から考察し、

日頃からの学習指導や進学に対する意識を強めなければならない。また、生徒自身が主体的な進路情報収集を行う姿勢を養うことも重要であり、その両面から進路指導について教員全体で考えていくべきである。

③【生活指導・特別活動】について

設問 8「学校は、体罰・暴言のない教育活動を行っている」について、肯定的評価をした生徒の 75%（R4:92%）教員の 89%（R4:100%）であった。肯定的な回答は、昨年比生徒が 17%分、教員が 11%分と減少した。これまで、新型コロナウイルス感染症の影響から、対面で活動することが少なかった生徒にとっては、指導されることが増えた、厳しいと不満をもつ生徒も多い。生徒に対する指導では、今後もさらに細心の注意を払い、教員と生徒間での温かな人間関係を構築していきたい。今後も体罰のない教育活動を行っていく。

設問 10 学校行事（体育祭、ぼろにあ祭、合唱祭）は充実しているとの肯定的な評価が昨年度に比べて、生 23%、保護者 2%、教員 12%と肯定的評価が低下した。新型コロナウイルス感染症対策をとっていた昨年度と比較すると、規制が緩やかになったが、生徒からの不満が多かった結果といえる。次年度は、今年度の反省を生かし、生徒自らが率先した活動にさせられるよう、存分に持てる力を発揮できることを考えていきたい。

④【教育環境、校内美化等】について

設問 16 学校図書館（図書室）の蔵書・設備は充実については、生徒、教員共に高く評価している。学校図書館が言語活動の充実大きく貢献していると言える。

⑤【情報公開】について

設問 17【情報公開】では、生徒の 75%（R4:85%）保護者は 78%（R3:85%）教員の 74%（R4:91%）が肯定的評価をしているが、昨年度と比較し減少した。今後は、より新しい情報を掲載するホームページの更新回数を増加させたり、「学年・学級便り」の定期的な発行を通して、保護者等に確実に情報が届くようさらに工夫していく。

⑥【学校満足度】について

設問 19 田園調布高校への入学を、親しい人に勧められると、生徒の 59%（R4:77%）保護者の 65%（R4:87%）教員の 58%（R4:72%）が肯定的評価をしている。昨年度より肯定的な回答が減少した。魅力ある学校づくりを基に、生徒に達成感を味合わせるための教育活動の充実を求めていく。

⑦【スクールポリシー】について

設問 20（生徒）設問 22（教員） 学校はスクールポリシー（3つ）の意識づけをしているかに対し、生徒は 64%、教員は 63%と肯定的評価が得られた。学校のスクールポリシーに対する意識づけについては、教員も生徒も見つめ直しながら、活動に取り組ませるようにしたい。

⑧【教育環境、校内美化等】（教員のみ）について

設問 20 肯定的評価は 47%と昨年比 8%上昇した。一人のみで対応しなければならない業務から、組織で対応することが増えたのが要因である。今後も周囲の教職員への業務シェアや負担を減らす方向で取り組んでいきたい。

設問 21 昨年比から 3%肯定的回答が上昇した。会議の時間設定や各案件に対する迅速な対応を互いに意識することにより、感じることもできた。しかし、日々の業務が縮減され、ライフ・ワークバランスが改善されることにより、教員が日々自己研鑽に励めるようになり、教育の質の向上へとつなげていきたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施や教科間での相互授業観察をさらに充実させる必要であると認識できた。
- ・学校評価アンケートを基に、具体的に改善する内容についての検討材料を得ることができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣住民に対し、さらなる学校の教育活動への理解を求める必要がある。
- ・学校満足度が全体的に下降した結果となったことから、協議委員に対しても意見を求めながら改善させる必要がある。